

### Ⅲ 小児糖尿病の治療法の社会適応に関する研究

#### — 研究報告総括 —

分担研究者

日 比 逸 郎 (国立小児病院内分泌代謝科)

研究協力者リスト (順不同)

松 浦 信 夫 (北海道大学小児科学教室)

北 川 照 男 (日本大学小児科学教室)

丸 山 博 (東京女子医大小児科学教室)

池 田 義 雄 (慈恵医大第三内科教室)

諏 訪 城 三 (神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科)

一 色 玄 (大阪市立大学小児科学教室)

貴 田 嘉 一 (愛媛大学小児科学教室)

田 苗 綾 子 (国立小児病院内分泌代謝科)

従来、小児のⅠ型糖尿病の治療や生活指導について、抽象的に叙述されたものは大量存在したが、具体的かつ実践的に記述されたものは少なく、かつその内容も不十分なものばかりであった。自己インスリン注射、自己血糖測定の制度的導入によって、医師および患者と患者家族、コメディカルスタッフ、学校保健関係者の新しいガイドブックを求める声は日ましにつよくなっている。

われわれは、昭和58年度までに集積した莫大な臨床研究データを資料とし、第1に医師むけの指針、第2に患児と家族、コメディカルスタッフ、学校保健関係者むけのガイドブックを昭和59、60年度の2年間で作成した。

#### (1) 医師むけ指針

昭和59年度において「Ⅲ章：日常のインスリン在宅投与法」、「Ⅳ章：食事療法の指針」、「Ⅴ章：運動療法の指針」を作成した。昭和60年度においては、これらⅢ、Ⅳ、Ⅴの3章の再検討を行い、その全面改訂を行った。さらに「Ⅰ章：糖尿病性昏睡・前昏睡の治療指針」、「Ⅱ章：糖尿病ケトアシドーシス一般の治療指針」を完成させた。

全国の小児科医、内科医にとって、すぐにベットのサイドで利用されるものと確信しているし、医師教育のスタンダードの教材としても利用されるものと念願している。

## (2) 一般むけのガイドブック

昭和60年度において、各研究協力者が分担執筆したものを、頻回の班会議で討論して内容を充実させるとともに、医師むけ指針との整合性をととのえるよう努力した。極めて充実した内容であり、患児とその家族など医学知識の不十分な読者にも理解していただきやすいものになったものとする。

全国の主治医が、このガイドブックを患者教育の材料として広く利用して下さるものと確信しているし、患児をとりまく関係者もこのガイドブックを読むことによって患者とのかかえる問題についての認識と理解をあらたにして下さるものと念じている。ただ、一般むけガイドブックを完成させるためには、このガイドブックを実際に利用したものの立場からの意見、批判を反映させる必要があるが、この段階は時間の制約上踏まれていない。したがって暫定案ということになり、今後この段階をへて、よりいっそう完成したものにする必要があるものと推測している。

## (3) 研究をおわるにあたって

両指針ともに、速やかにわが国の隅々にまでこれがゆきわたり、実践に利用され、そのなかから生まれた批判が、さらにこれら指針のさらなる成長の礎となることを切望している。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



従来,小児の 型糖尿病の治療や生活指導について,抽象的に叙述されたものは大量存在したが,具体的かつ実践的に記述されたものは少なく,かつその内容も不十分なものばかりであった。自己インスリン注射,自己血糖測定の制度的導入によって,医師および患者と患者家族,コメディカルスタッフ,学校保健関係者の新しいガイドブックを求める声は日ましにつよくなっている。

われわれは,昭和58年度までに集積した莫大な臨床研究データを資料とし,第1に医師むけの指針,第2に患児と家族,コメディカルスタッフ,学校保健関係者むけのガイドブックを昭和59,60年度の2年間で作成した。